

令和7年度 第1回山口県感染症対策連携協議会

我が国の感染症発生動向 について

国立健康危機管理研究機構（JIHS）

国立感染症研究所 応用疫学研究センター

実地疫学専門家養成コース（FETP）第26期

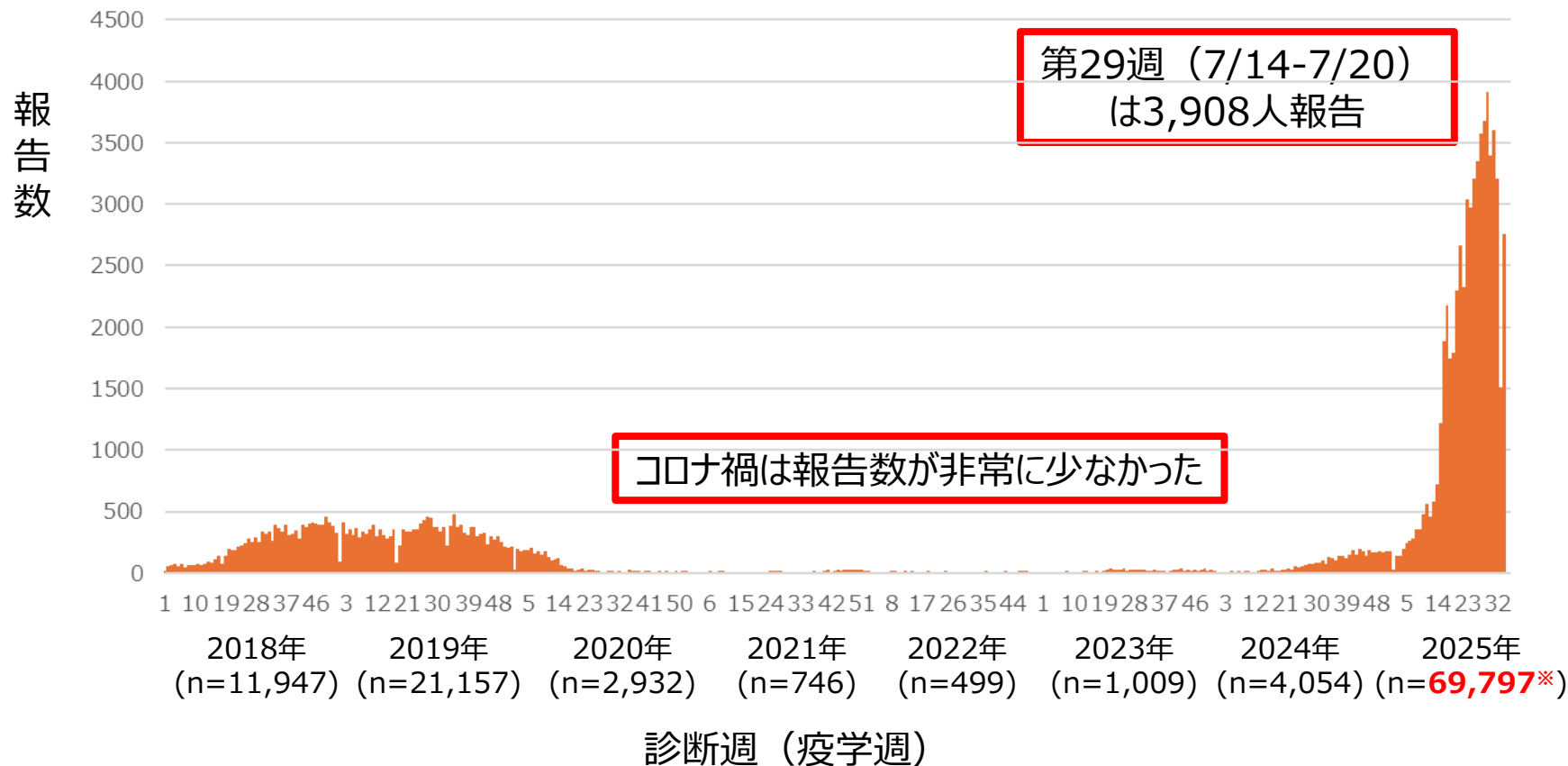
山口県健康福祉部健康増進課

主幹（医師） 村井 達哉

これから述べる情報については
村井個人の意見であり、
国立健康危機管理研究機構
国立感染症研究所とは関係が
ないことにご留意ください

百日咳が国内で流行中

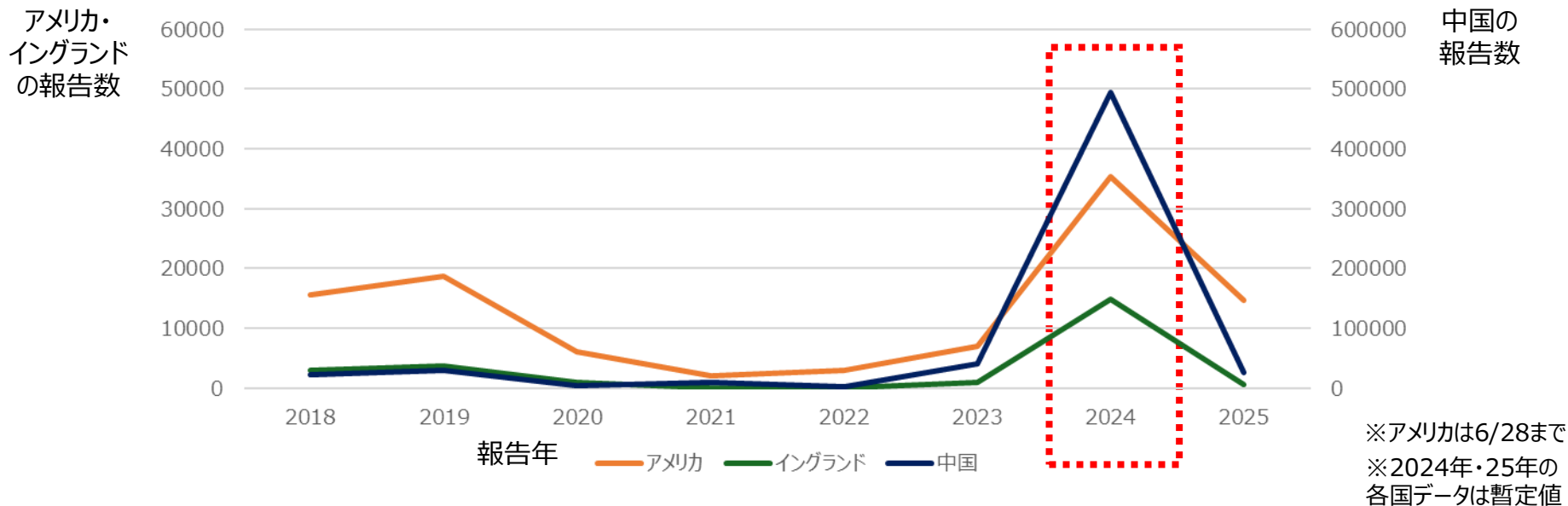
日本国内における百日咳の診断週別報告数
(n=112,141、2018年1月1日～2025年8月24日)



※IDWR速報データから作成 (2025年9月8日時点)
速報値のため、週別合計と累計が一致しない場合があります
[【LINK】](#)

国外では主に2024年に流行があった

アメリカ・イングランド・中国における百日咳の年別報告数（2018年～2025年6月※）



中国における百日咳の月別報告数（2024年1月～2025年8月）



マクロライド耐性百日咳菌について

✓ 第一選択薬であるマクロライド系抗菌薬（エリスロマイシン、クラリスロマイシン、アジスロマイシン）に耐性を示す百日咳菌

✓ 世界で初めて分離されたのは1994年アメリカアリゾナ州で、エリスロマイシンに高度耐性（MIC 64 $\mu\text{g/mL}$ ）を示した

CDC MMWR Morb Mortal Wkly Rep. 1994 Nov 11;43(44):807-10.

✓ 中国では2011年に確認され、その後中国国内で急速に拡散した

Q Zhang et al. Clin Microbiol Infect. 2013 Jun;19(6):E260-2.

✓ 日本では2018年に東京都と大阪府で1株ずつ分離されたが、その後5年間は報告がなかった。2024年以降は、東京都・大阪府・沖縄県などで小児を中心に耐性菌が報告され、死亡例もあり

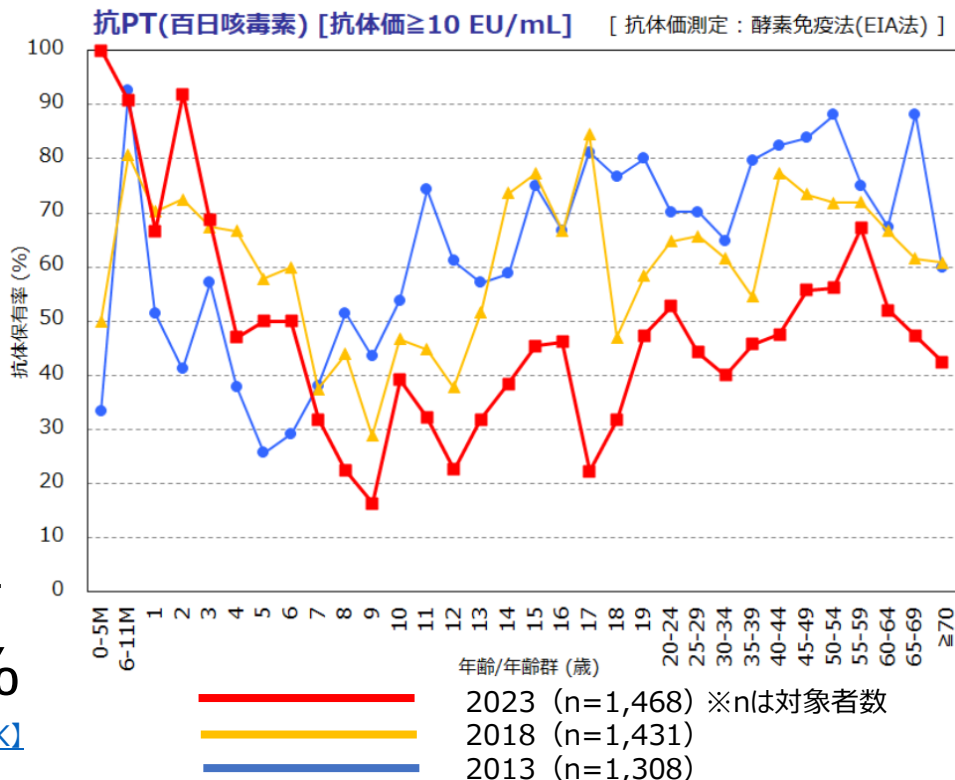
T Iwasaki et al, J Infect Chemother. 2025 Jul;31(7):102727.
IASR Vol. 46 p108-110: 2025年5月号【[LINK](#)】
百日咳の発生状況について（JIHS_2025.4.22）【[LINK](#)】

ワクチン接種

✓日本では生後2・3・4カ月頃と1歳半頃に合計4回定期接種

✓厚生労働省の調査では、2023年度の第1期(4回)完了率は93.7%

定期の予防接種実施者数_厚生労働省【[LINK](#)】



感染症流行予測調査グラフ_抗体保有状況より【[LINK](#)】

✓ワクチン接種による免疫持続期間は4～12年程度

✓百日咳罹患による免疫持続期間は4～20年程度

Aaron M W et al. Pediatr Infect Dis J. 2005 May

✓世界各国では、**小学校・中学校入学前に追加接種**を行う国や、**妊娠ごとに定期接種として実施**する国がある（イギリスやオーストラリア等）

2カ月未満の乳児への影響

✓致命率は2カ月未満の乳児で1.1%、2～11カ月で0.1% Red Book 2024-2027

✓アメリカでは2000年から2017年の間に百日咳による死亡例が307例報告され、うち84%が2カ月未満の乳児であった CDC_Pertussis[LINK]

✓マクロライド耐性が確定または疑われる症例、マクロライド系抗菌薬が使用できない症例にST合剤が使用される。核黄疸のリスクが高まる可能性があるので新生児は原則禁忌。ただしビリルビン値が低く、他に有効な選択肢がない救命的状況では使用を許容する考えもある

IASR Vol. 46 p108-110: 2025年5月号[LINK]

『小児呼吸器感染症診療ガイドライン 2022 百日咳に関する追補版』
Ver.1主にマクロライド耐性百日咳菌への対応について[LINK]

表 2A 年齢ごとの百日咳に対する抗菌薬²⁾

	生後1か月未満	生後1か月～5か月	生後6か月以降の小児	成人
アジスロマイシン ¹⁾	10mg/kg/日、1日1回、5日間 (第1選択薬)	10mg/kg/日、1日1回、5日間	1日目: 10mg/kg/日、1日1回 2-5日目: 5mg/kg/日、1日1回	1日目: 500mg/日、1日1回 2-5日目: 250mg/日、1日1回
クラリスロマイシン ²⁾	推奨されない	15mg/kg/日、1日2回、7日間	15mg/kg/日、1日2回、7日間	1g/日、1日2回、7日間
エリスロマイシン ³⁾	40mg/kg/日、分4、14日間	40mg/kg/日、分4、14日間	40mg/kg/日、分4、14日間	2g/日、1日4回、14日間
ST合剤 ⁴⁾	新生児・低出生体重児は禁忌	トリメトプリム (TMP)量として 8mg/kg/日、1日2回、14日間	TMP量として 8mg/kg/日、1日2回、14日間	TMP量として 320mg/日、1日2回、14日間

COVID-19の流行確認で便利なサイト

更新日: 2025/9/7

新型コロナ患者数推移 (中国・四国)



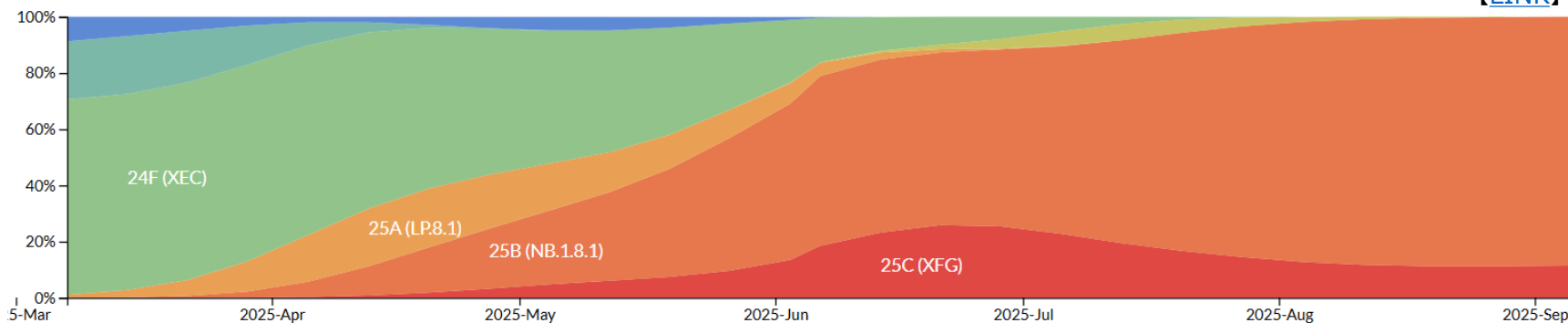
[\[LINK\]](#)

山口県感染症情報システム、
厚労省やJIHSの
定点当たり報告数の
確認はもちろんです

← モデルナのダッシュボード
で患者数の推計値を確認

↘ Nextstrainで
流行株を確認
(世界のデータも閲覧可)

Frequencies (colored by Clade and normalized to 100% at each time point for 103 out of a total of 4159 tips)



[\[LINK\]](#)

麻疹は福岡県で流行中

2025年は、神奈川県・東京
を中心に関東地方
大阪府・兵庫県を中心に
近畿地方から報告があった

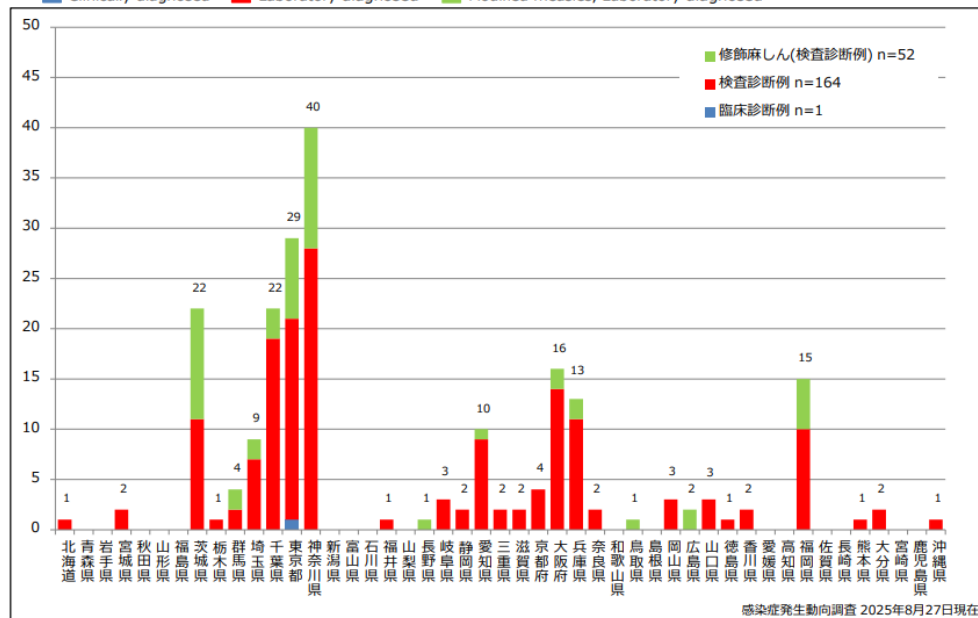
8月上旬より福岡県からの
報告が増えており、
第34週（8/18～8/24）
は全国8例中7例が
福岡県からの報告

麻疹 発生動向調査【[LINK](#)】

4. 都道府県別病型別麻疹累積報告数 2025年 第1～34週 (n=217)

Cumulative measles cases by prefecture and methods of diagnosis, week 1-34, 2025 (as of August 27, 2025)

Clinically diagnosed Laboratory diagnosed Modified measles, Laboratory diagnosed

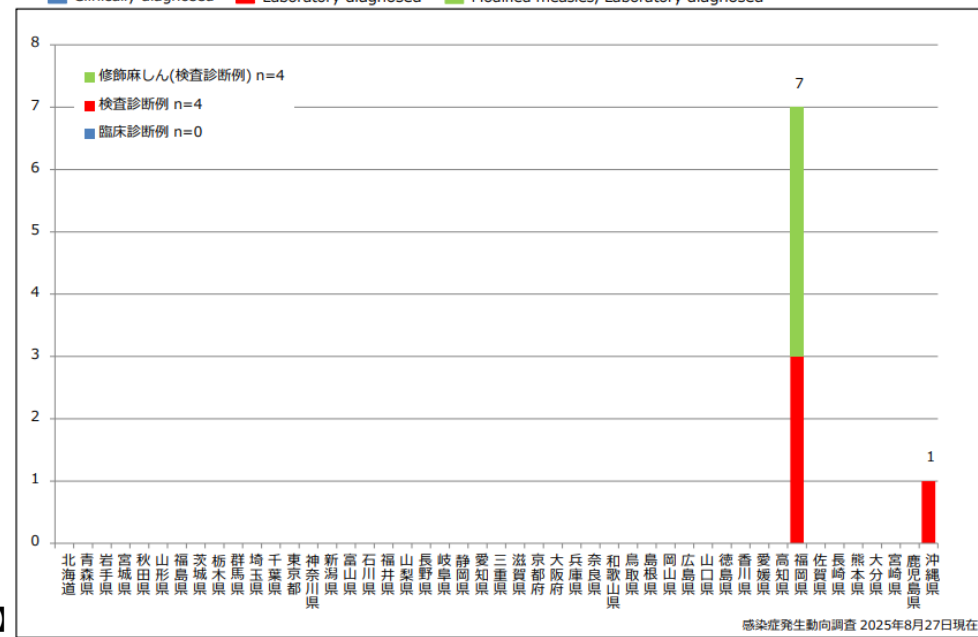


感染症発生動向調査 2025年8月27日現在

3. 都道府県別病型別麻疹報告数 2025年 第34週 (n=8)

Reported measles cases by prefecture and methods of diagnosis in week 34, 2025 (as of August 27, 2025)

Clinically diagnosed Laboratory diagnosed Modified measles, Laboratory diagnosed



感染症発生動向調査 2025年8月27日現在

SFTSの届出数増加と感染地域拡大

年間届出数は届出開始日（2013年3月4日）
以降**最大の**

149例

（2025/8/31まで：2025/9/3時点）[\[LINK\]](#)

報道機関各社 様

令和7年8月7日
City of Sapporo

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生について

8月6日、市内医療機関より、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生届の提出がありましたのでお知らせいたします。

SFTS患者は主に西日本で報告があり、最近では関東地域でも患者発生が認められており、本件は、道内1例目の発生となります。

SFTSは、主にSFTSウイルスを保有するマダニに咬（か）まれることで感染します。

そのため、マダニの活動が盛んになる春から秋にかけて患者が多く発生します。

草むらや藪などに入る場合は、肌の露出を少なくし、虫除け剤を使用するなどして、マダニに咬まれないようにしましょう。

また、SFTSウイルスに感染・発病したネコやイヌから感染する事例も報告されていることから、体調不良の原因が明らかでないペットとの接触にも注意をしましょう。

1 概要

(1) 年代、性別等

道央圏在住、60歳代、男性

(2) 症状

発熱、頭痛、筋肉痛、下痢 等

(3) 感染地域

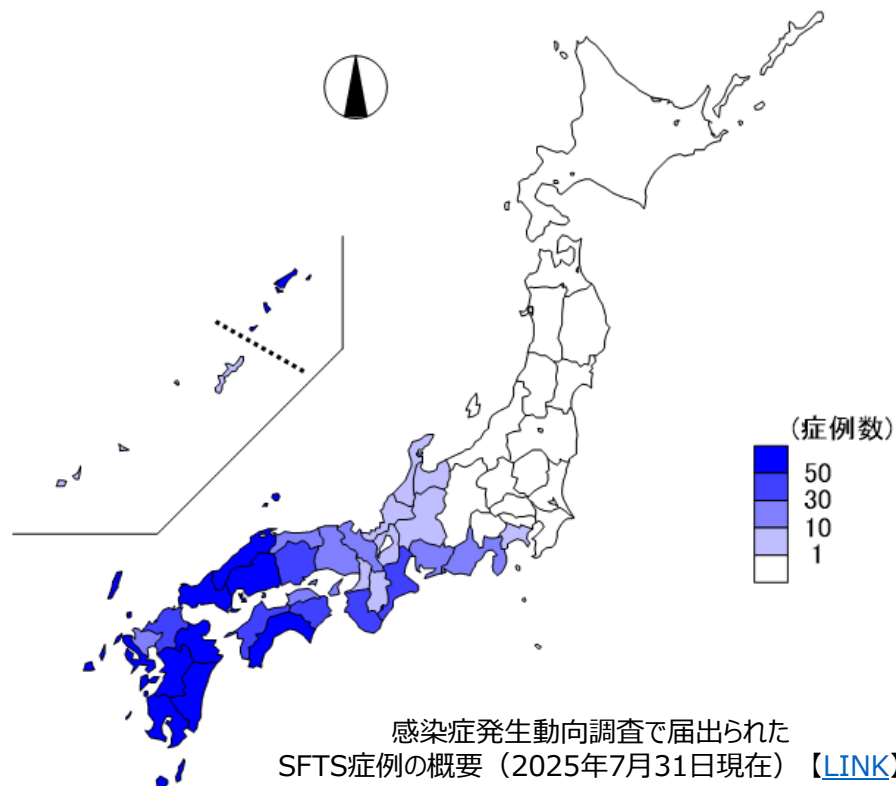
北海道内

(4) 感染経路

不明（行動歴に草刈りがあるが、日常的に草木に触れる機会があり、感染経路は不明）

[\[LINK\]](#)

SFTS届出症例の推定感染地域
（n=1,185, 2025年7月31日現在）



感染症発生動向調査で届出られた
SFTS症例の概要（2025年7月31日現在）[\[LINK\]](#)

その後、上図に加え**北海道（左図）**
茨城県※が推定感染地域の届出あり

※県内初の重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者の発生について－茨城県[\[LINK\]](#)

三重県内における獣医師の死亡例

- ✓マダニ-ヒト感染が中心ではあるが、**感染したヒト・ネコ・イヌからヒトへの感染例の報告**もあり

SFTS診療の手引き2024年版【[LINK](#)】

- ✓後にSFTSと検査診断されたネコを診察した際に、个人防护具の着用など特別な感染予防対策実施なし
- ✓入院時、意識障害（GCS13点）・発熱・下痢・左腋窩リンパ節の腫大あり（皮疹や痂皮はなし）。検査にて、血球貪食症候群・腎機能障害・横紋筋融解症を示唆する所見あり。抗ウイルス薬にて治療をおこなったが、入院5日目に死亡

IASR Vol. 46 p165-167: 2025年8月【[LINK](#)】

- ✓2025年7月31日時点で、**動物の診療やケア等でSFTSに感染したと推定される獣医療従事者症例は12例**

感染症発生動向調査で届出られたSFTS症例の概要（2025年7月31日現在）【[LINK](#)】

山口県内で起こりうること・備え等

百日咳

2カ月未満の乳児の重症者発生

- ✓ 周囲（特に親や兄弟が感染源になりうる）から乳児に感染させないように、ワクチン接種を含めた予防の啓発
- ✓ 重症者やワクチン未接種者に対する耐性菌検査の必要性

COVID-19

感染者数の増加（インフルエンザも流行の兆しあり）

- ✓ 今回の流行株（NB.1.8.1）は、従来株と比べ重症化リスク上昇を示すデータは現時点でなく、今まで通りの対応
- ✓ 発熱患者にはインフルエンザの検査も検討

山口県内で起こりうること・備え等

麻疹

福岡県から感染拡大の可能性（3月以来の県内発生の可能性）

- ✓ 隣県での報告数の増加を周知し、感度を上げて検査等の対応
- ✓ 疑い例が発生した場合は、最寄りの保健所に相談し早期の対応
- ✓ 陽性者発生時には2025年3月の経験を生かした対応

SFTS

感染したイヌ・ネコからのヒト感染例（山口県では過去に報告なし）

- ✓ SFTSを疑った際の問診には、ペットの有無・状態の聴取も考慮
- ✓ 日頃の診療から標準予防策の徹底